

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

④その他

●九州工業大学情報工学府

「モジュール積み上げ方式の分野横断型コース」の事例

〈大学院におけるコースワークに対する学生の意識改革〉

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

体系的なコースワークとしてモジュールコース制を導入し実施した。意識の高い学生はそれに反応して積極的にモジュールやコースの習得を行っているが、単に単位取得だけを目的とした講義の履修方法を取っている学生がまだそれなりにおり、コースワークに対する意識改革を全学生に浸透させるまでには至っていない。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

モジュールやコースの習得は義務ではなく学生の自主性に任せていることと、大学院の修了条件が修得単位数だけであることから、単位数だけ揃えて修了すればよいという意識の学生がいるため。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

学生への周知と啓蒙を行うためにコース・モジュール制の趣旨を説明する冊子を全学生に配布している。また、モジュールやコース設定を毎年度見直し更新している。コース修了者には、修了時にコース修了証を授与している。これらにより徐々にコース履修者が増える傾向にはあるが、頭打ちになりそうな傾向もみられる。さらに末端の学生にまで意識改革を浸透させるためには、モジュール習得やコース履修状況を成績表に記載するなどして就職活動に活用させるなど、学生にとって具体的なメリットが肌で感じとれるような施策を講じれば良いと思われる。